

2013年（平成25年）の日本の天候（速報）

本資料は、全国154地点の気象台等における12月20日までの観測データをもとに、速報としてまとめたものです。12月31日までの観測データによる資料は平成26年1月6日に発表します。

2013年（平成25年）の日本の天候の特徴：

○ 東日本、西日本、沖縄・奄美は高温・多照、北日本は多雨（雪）・寡照

春の後半から秋の前半にかけて全国的に高温傾向が続き、東・西日本と沖縄・奄美の年平均気温は高かった。冬から春の前半の低温が明瞭だった北日本では年平均気温は平年並だった。また、東・西日本と沖縄・奄美では、春から秋にかけて高気圧に覆われて晴れる日が多く、東日本太平洋側と西日本の年間日照時間はかなり多く、東日本日本海側と沖縄・奄美は多かった。一方、一年を通じて低気圧や前線の影響を受けやすかった北日本では年間日照時間が少なく、年降水量は多く、特に日本海側でかなり多かった。

○ 北日本、東日本、西日本は寒冬

北日本を中心に冬型の気圧配置となる日が多く、周期的に強い寒気が南下したことから、北・東日本では2年連続、西日本では3年連続の寒冬となった。北日本日本海側の冬の降雪量は多く、酸ヶ湯（青森県青森市）で積雪の深さが566cmを観測するなど、記録的な積雪となったところがあった。

○ 全国で暑夏、8月には熱波

太平洋高気圧の勢力が日本の南海上から西日本にかけて強かったことなどから、全国で暑夏となり、西日本では夏の平均気温平年差が+1.2℃と1946年の統計開始以来第1位の高温となった。特に、8月上旬後半から中旬にかけては東・西日本を中心に厳しい暑さに見舞われ、8月12日には、江川崎（高知県四万十市）で日最高気温が41.0℃となり歴代全国1位となった。

○ 各地で記録的な豪雨

7月から10月にかけては、太平洋高気圧の縁を回る湿った気流と梅雨前線の影響や、台風と秋雨前線の影響を受けて大雨に見舞われたところがあり、特に、島根県、山口県、秋田県、岩手県、京都府、滋賀県、福井県および大島（東京都）では記録的な豪雨を観測した。

1 概況

全国的に、春の前半までは気温の低い時期と高い時期が交互に現れたのち、春の後半から秋の前半にかけては高温傾向が続き、顕著な高温の時期も見られた。秋の後半以降は西日本や沖縄・奄美を中心に低温となった。年平均気温は、東・西日本と沖縄・奄美で高く、冬から春の前半にかけての低温が明瞭だった北日本では平年並だった。春と秋を中心に高気圧に覆われて晴れの日が多かった東日本太平洋側と西日本では年間日照時間がかなり多く、12月20日までの年間日照時間の平年比は東日本太平洋側で112%となり1946年の統計開始以来最も多い記録を上回り、西日本太平洋側では111%となって1994年と並んで1位タイの記録となっている。

一年を通じて低気圧や前線の影響を受けやすかった北日本では、年間日照時間が少なく、年降水量は多く、特に日本海側ではかなり多かった。また、夏以降、高気圧に覆われて晴れの日が多かった沖縄・奄美では、年間日照時間が多く、年降水量は少なかった。

冬は、北日本を中心に冬型の気圧配置となる日が多く、周期的に強い寒気が南下したため、北日本から西日本にかけて低温となり、日本海側では冬の降水量が多く、日照時間は少なかった。一方、太平洋側では平年と同様に晴れの日が多かったが、低気圧の通過時にはまとまった雨または雪が降り、冬の降水量は多くなった。冬の降雪量が多かった北日本日本海側の一部では記録的な積雪となり、酸ヶ湯（青森県青森市）で積雪の深さが 566 cm となるなど、アメダスも含めた 12 地点（春以降も含めれば 16 地点）で月最深積雪の大きい記録を更新した。沖縄・奄美では、2 月には顕著な高温の時期があり、暖冬となった。

春は、4 月中旬から 5 月上旬にかけて寒気の影響で全国的に低温となる一方、そのほかの時期は暖かい空気に覆われて、東・西日本を中心に高温となり、気温の変動が大きかった。東・西日本では高気圧に覆われて晴れた日が多かったため、春の降水量は西日本でかなり少なく、日照時間は東・西日本でかなり多くなった。西日本太平洋側の降水量の平年比は 56% と最も少ない記録を、東日本太平洋側、西日本日本海側、西日本太平洋側の日照時間の平年比はそれぞれ 121%、118%、122% と最も多い記録を更新した（いずれも 1946 年の統計開始以来）。一方、北日本日本海側では寒気や気圧の谷の影響で曇りや雨または雪の日が多く、春の日照時間はかなり少なかった。また、北海道では、3 月上旬に発達した低気圧の影響で暴風雪に見舞われた。

夏は、太平洋高気圧の勢力が日本の南海上から西日本にかけて強く、また、北日本まで暖かい空気が流れ込んだため、全国的に高温となり、特に西日本では平均気温の平年差が +1.2℃ と 1946 年の統計開始以来の最も高い記録を更新した。また、江川崎（高知県四万十市）で日最高気温が歴代全国 1 位となる 41.0℃ を記録するなど、アメダスも含めた 125 地点で日最高気温の高い記録を更新した。沖縄・奄美では、太平洋高気圧に覆われて晴れる日が続いたため、顕著な少雨多照の夏となった。また、東日本太平洋側でも夏の降水量はかなり少なかった。一方で、梅雨前線や太平洋高気圧の縁を回る湿った気流の影響で、日本海側ではたびたび大雨に見舞われ、東日本日本海側や東北日本海側の夏の降水量はかなり多かった。特に、7 月 28 日は山口県と島根県で、8 月 9 日は秋田県と岩手県で、8 月 24 日は島根県で記録的な豪雨となった。

秋は、9 月中旬から 11 月上旬にかけて、偏西風が平年より北側を流れた影響で日本付近への寒気の南下が弱かったため、北日本から西日本にかけて気温の高い状態が続いた。11 月中旬以降は、強い寒気が流れ込み、北日本を除いて気温の低い日が多かった。9 月から 10 月にかけては、全国的に台風や秋雨前線の影響でたびたび大雨に見舞われたほか、11 月には低気圧や寒気の影響で日本海側では雨の日が多かった。このため、北・西日本と東日本日本海側の秋の降水量はかなり多く、降水量の平年比は北日本日本海側で 135%、東日本日本海側で 162% と 1946 年の統計開始以来最も多い記録を更新した。また、秋に日本へ接近した台風の数は 9 個となり、1951 年以降では 1966 年と並んで最も多く、9 月中旬に上陸した台風第 18 号の影響により福井県、滋賀県、京都府で、10 月中旬に接近した台風第 26 号の影響により大島（東京都）で記録的な豪雨となった。一方で、東・西日本と沖縄・奄美では高気圧に覆われて晴れた日も多く、日照時間は多かった。

2 気温、降水量、日照時間の気候統計値

(12月20日までのデータによる)

(1) 平均気温

年平均気温は、東・西日本、沖縄・奄美で高かった。北日本は平年並だった。

(2) 降水量

年降水量は、北・東日本日本海側ではかなり多く、北日本太平洋側で多かった。新庄、酒田(以上、山形県)では、12月20日までの年降水量の平年比が最大値を上回っている。一方、沖縄・奄美では少なかった。種子島(鹿児島県)では、12月20日までの年降水量の平年比が最小値を下回っている。東日本太平洋側、西日本は平年並だった。

(3) 日照時間

年間日照時間は、東日本太平洋側、西日本ではかなり多く、東日本日本海側、沖縄・奄美で多かった。熊谷(埼玉県)、神戸(兵庫県)、沖永良部(鹿児島県)など13地点では、12月20日までの年間日照時間の平年比が最大値を上回っている。一方、北日本では少なかった。

地域平均平年差(比)と階級(2013年)(12月20日までのデータによる)

	気温 平年差 ℃(階級)	降水量 平年比 %(階級)	日照時間 平年比 %(階級)		気温 平年差 ℃(階級)	降水量 平年比 %(階級)	日照時間 平年比 %(階級)		
北日本	0.3 (○)	115 (+)*	96 (-)	北海道	0.3 (○)	117 (+)*	92 (-)*		
		日 123 (+)*	日 93 (-)			才 119 (+)*	才 91 (-)		
		太 109 (+)	太 98 (-)			太 111 (+)	太 93 (-)		
						太 118 (+)	太 94 (-)*		
東日本	0.6 (+)	102 (○)	111 (+)*	東北	0.2 (○)	113 (+)	100 (○)		
		日 128 (+)*	日 107 (+)			日 129 (+)*	日 97 (○)		
		太 95 (○)	太 112 (+)*			太 101 (○)	太 102 (○)		
西日本	0.4 (+)	101 (○)	110 (+)*	関東甲信	0.7 (+)	98 (○)	112 (+)*		
		日 102 (○)	日 108 (+)*			北陸	0.3 (○)	128 (+)*	107 (+)
		太 101 (○)	太 111 (+)*					東海	0.6 (+)
						近畿	0.4 (+)	105 (○)	112 (+)*
沖縄・奄美	0.3 (+)	88 (-)	105 (+)			日 100 (○)	日 113 (+)*		
						太 107 (+)	太 111 (+)*		
				中国	0.5 (+)	陰 113 (+)	陰 108 (+)		
						陽 107 (+)	陽 107 (+)		
						陽 120 (+)	陽 109 (+)*		
				四国	0.4 (+)	107 (○)	110 (+)*		
				九州北部	0.5 (+)	101 (○)	107 (+)*		
				九州南部 ・奄美	0.4 (+)	77 (-)*	112 (+)*		
						本 0.4 (+)	本 77 (-)*	本 112 (+)*	
				奄 0.2 (○)	奄 80 (-)	奄 113 (+)*			
				沖縄	0.3 (+)	91 (-)	102 (○)		

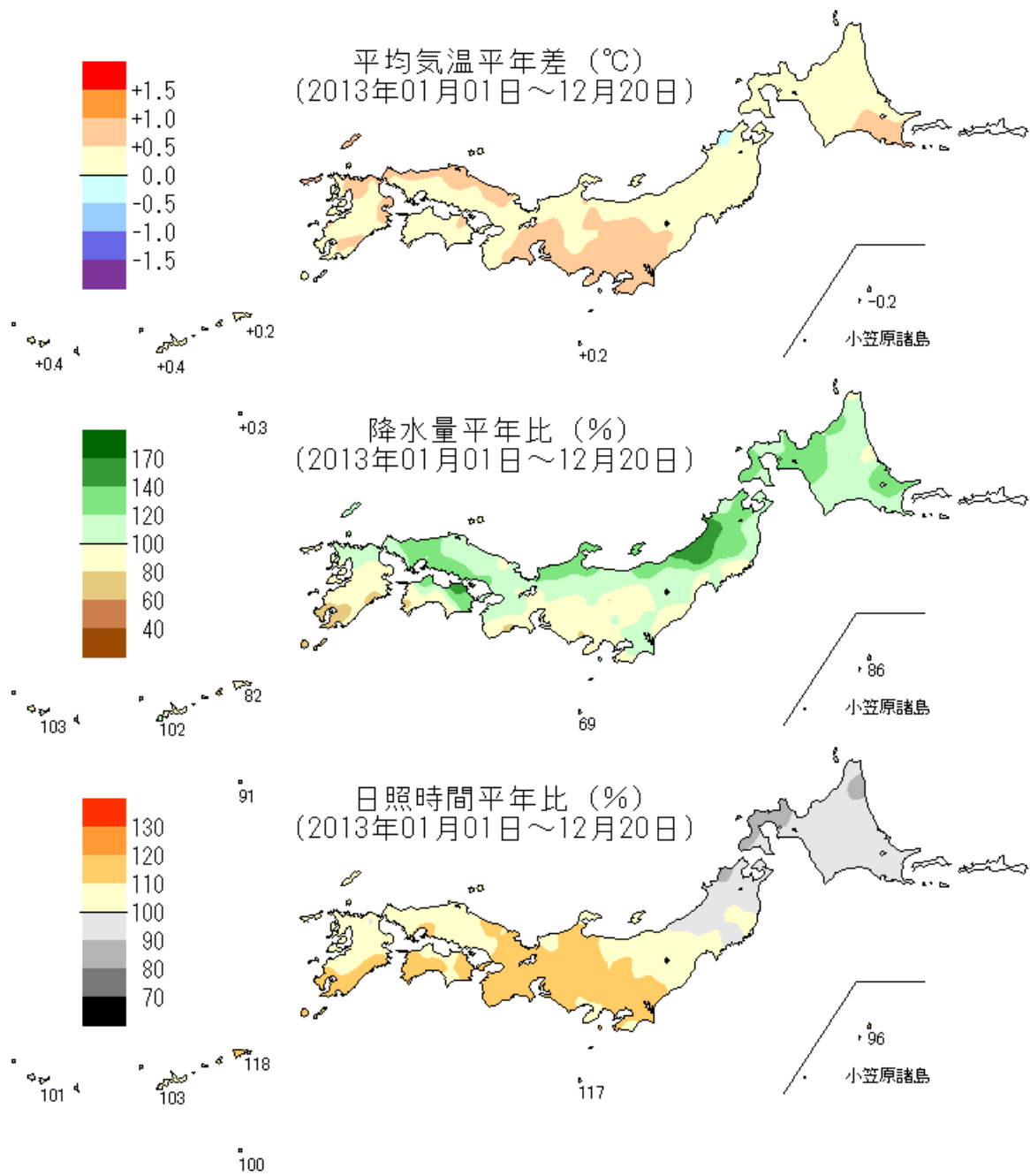
階級表示 - :低い(少ない) ○:平年並 +:高い(多い)
*はかなり低い(少ない) かなり高い(多い)を表す

地域表示 日:日本海側 陰:山陰 本:本土(九州南部)
才:オホーツク海側 陽:山陽 奄:奄美
太:太平洋側

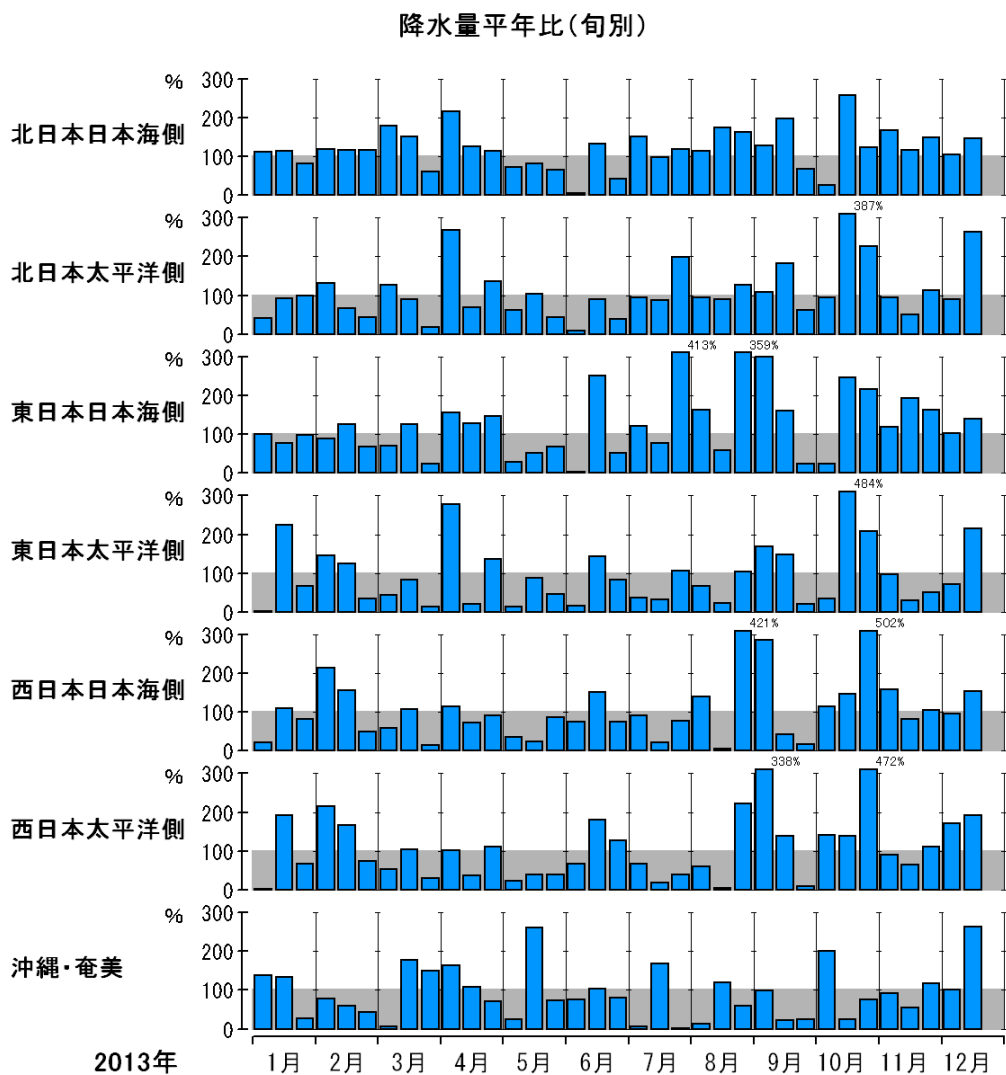
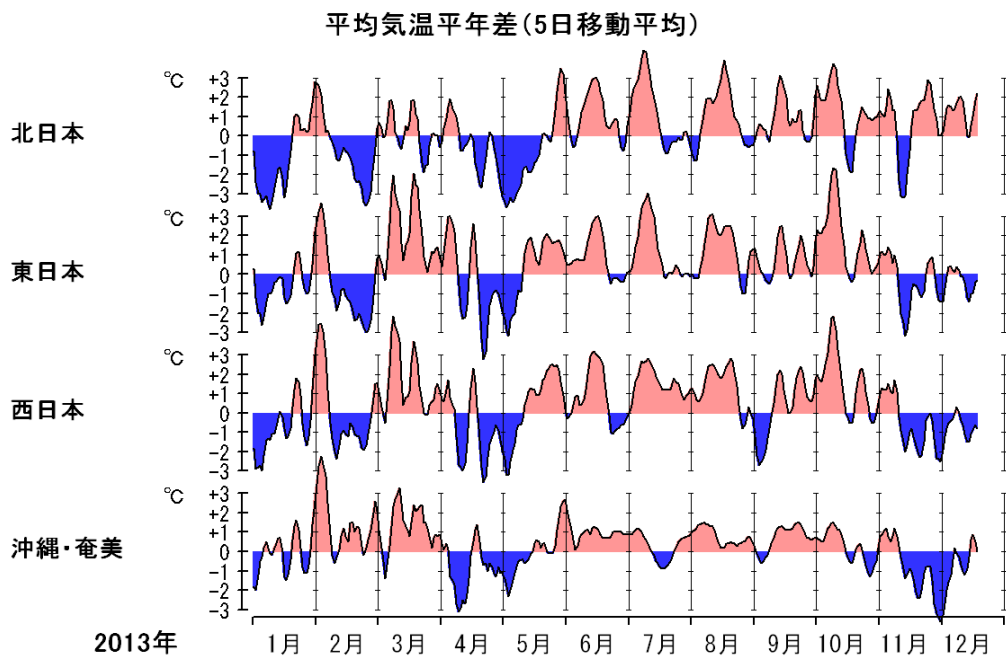
(注)・基礎となるデータは全国の気象台等での観測値で、観測所数は154地点である。このうち、降雪の深さ、最深積雪については、観測を行っている106地点が対象である。

・「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の階級は、1981~2010年における30年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる(各階級が10個ずつになる)ように決めている。また、値が1981~2010年の観測値の下位または上位10%に相当する場合には、「かなり低い(少ない)」「かなり高い(多い)」と表現する。

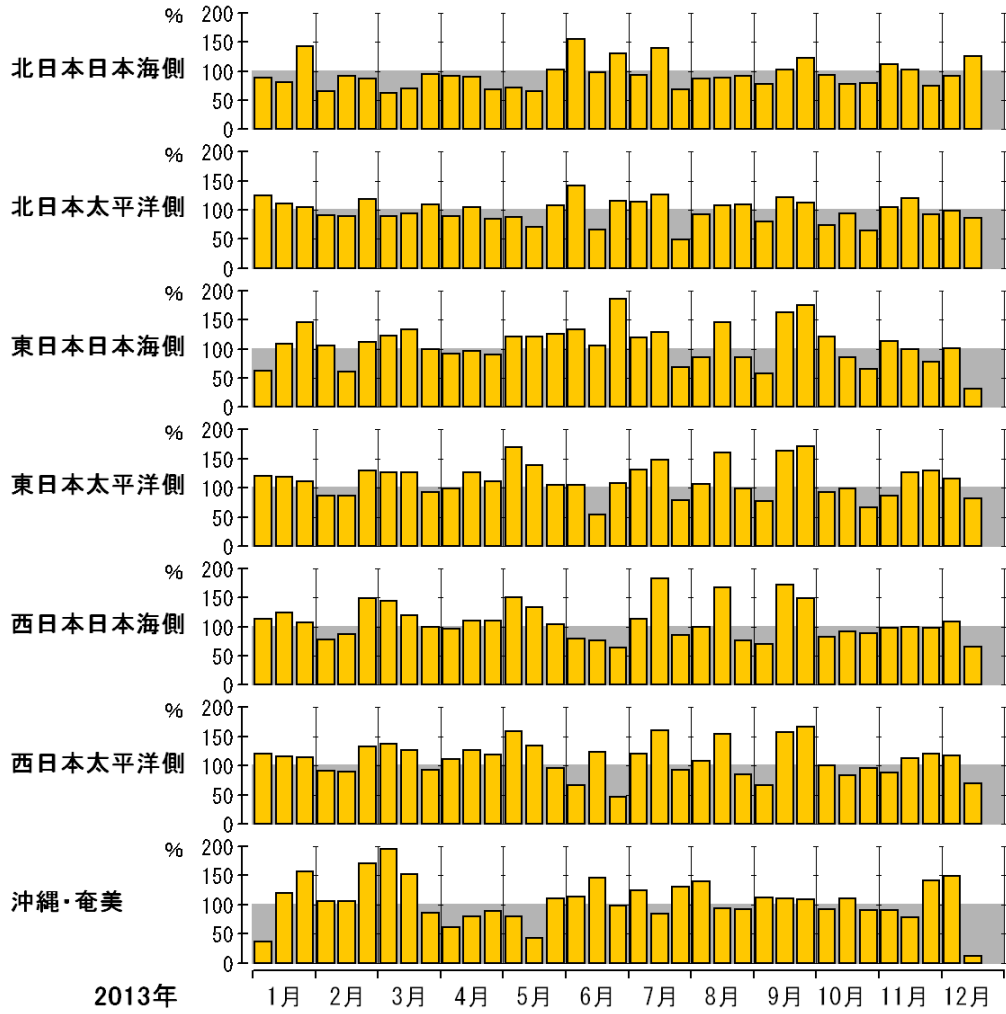
平年差（比）図（2013年）（12月20日までのデータによる）



地域平均平年差（比）の経過（2013年）（12月20日までのデータによる）



日照時間平年比(旬別)



観測史上1位の値（月、3か月、年別値）の更新地点数

- ・全国 154 地点の気象台等の統計値の中で、観測史上1位となった地点数を記載した。
- ・値は1位を更新した地点数でタイ記録は含めない、タイ記録がある場合には「値タイ」として横に併記した。
- ・地域は更新およびタイ記録の地点数の合計が5以上のとき記載した。

	平均気温		降水量		日照時間		降雪の深さ	最深積雪
	最高	最低	最大	最小	最大	最小	最大	最大
1月	0	0	0	0	2	0	1タイ	0
2月	0	0	1	0	0	1	1、1タイ	0
冬	0	0	0	0	0	0	3	
3月	26、9タイ 東・西日本	0	2	8、1タイ 北～西日本	1	2	1	0
4月	0	0	2	0	0	1	0	0
5月	0	0	0	16 北～西日本	23 東・西日本	2		
春	2、1タイ	0	0	10 西日本	36 北～西日本	5 北日本		
6月	2、1タイ	0	1	5 北日本	0	0		
7月	9、1タイ 西日本	0	6 北・東日本	11、1タイ 東・西日本、 沖縄・奄美	1	0		
8月	16、10タイ 東・西日本、 沖縄・奄美	0	1	3	0	0		
夏	26、13タイ 東・西日本、 沖縄・奄美	0	1	8 東・西日本、 沖縄・奄美	0	0		
9月	0	0	0	1	8 東・西日本	0		
10月	16、14タイ 北～西日本	0	3	0	0	1		
11月	0	0	2	0	0	0	0	0
秋	0	0	3	0	0	0		
年(速報) (2013年)	0	0	2	1	13、6タイ 東・西日本、 沖縄・奄美	0		

3 季節別の天候経過

冬（2012年12月～2013年2月）：

- 北日本から西日本にかけて気温が低かった
- 北日本から西日本にかけて降水量が多かった
- 北日本日本海側では所々で記録的な積雪

北日本を中心に冬型の気圧配置となる日が多かった。周期的に強い寒気が南下した影響で、北日本から西日本にかけて、冬の平均気温は低く、日本海側を中心に降水量が多く日照時間が少なかった。一方、太平洋側では平年と同様に晴れの日が多かったが、低気圧の通過時にはまとまった雨または雪の降る日があったため、冬の降水量は多くなり、大雪となった日もあった。

日本海側の降雪量は北日本で多かったが、西日本では少なかった。東日本では平年並だった。北・東日本では3か月連続で月平均気温が低く、低温の状態が続き積雪の減少する時期が少なかった。また、たびたび強い寒気の影響を受けたため、北日本から新潟県の山沿いにかけて降雪量が多くなった。酸ヶ湯（青森県青森市）で積雪の深さが566cmとなるなど、全国の積雪を観測している330地点（アメダスと气象台等）のうち、12地点（春以降も含めれば16地点）で月最深積雪の大きい方からの1位の値を更新し、記録的な積雪となった。

沖縄・奄美では天気は数日の周期で変化し、寒気の影響を受けることが少なく、2月はじめには顕著な高温となったこともあり、冬の平均気温は高かった。

平均気温は、北日本から西日本にかけて低く、北日本では平年を1℃以上下回った。一方、沖縄・奄美では高かった。降水量は、北日本日本海側ではかなり多く、北日本太平洋側、東日本日本海側、西日本で多かった。東日本太平洋側、沖縄・奄美は平年並だった。日照時間は、北日本日本海側で少なかった。一方、東日本太平洋側では多かった。北日本太平洋側、東日本日本海側、西日本、沖縄・奄美は平年並だった。

春（3～5月）：

- 全国的に気温の変動が大きかった
- 西日本太平洋側で降水量が記録的に少なく、東日本太平洋側と西日本で日照時間が記録的に多かった
- 北日本日本海側で日照時間がかなり少なかった

3月は、北日本では北海道を中心に、月のはじめに発達した低気圧の影響により暴風雪となったほか、その後も日本海側を中心に低気圧や冬型の気圧配置の影響により曇りや雪または雨の日が多かった。東・西日本と沖縄・奄美では周期的に天気は変わったものの、高気圧に覆われて晴れた日が多く、また南からの暖かい空気に覆われて気温が平年を上回る日が多かった。

4月は、上旬に、発達した低気圧の影響により北日本から西日本の広い範囲で大雨や暴風となった。その後も北日本では低気圧の影響を受けやすかった。東・西日本では高気圧に覆われて晴れた日が多かった一方、沖縄・奄美では前線や湿った気流の影響により曇りや雨の日が多かった。強い寒気が10日前後と下旬に日本付近に流れ込んだため、気温は全国的に平年を下回る日が多かった。

5月は、上旬に、この時期としては強い寒気に覆われて全国的に気温は平年を大幅に下回った。その後は、北海道では気圧の谷や湿った気流の影響、沖縄・奄美では前線などの影響により曇りや雨の日が多かったが、東北地方と東・西日本では高気圧に覆われて晴れて気温の高い日が多かった。月の終わりには、北日本から西日本にかけて南からの湿った気流を受けやすく曇りや雨となった。

以上のとおり、気温は3月から4月はじめにかけてと5月中旬以降は東・西日本を中心に高温となった一方、4月中旬から5月上旬にかけては全国的に低温となるなど、全国的に気温の変動が大きかった。

東・西日本では高気圧に覆われて晴れた日が多かったため、西日本では春の降水量がかなり少なく、東・西日本では日照時間がかなり多くなった。西日本太平洋側の春の降水量の平年比は56%で1946年の統計開始以来最も少ない記録を更新した。また春の日照時間の平年比は、東日本太平洋側で121%、西日本日本海側で118%、西日本太平洋側で122%と、いずれも1946年の統計開始以来最も多い記録を更新した。一方、北日本日本海側では、寒気や湿った気流の影響により曇りや雨または雪の日が多かったため、春の日照時間はかなり少なかった。

平均気温は、東・西日本で高かった。一方、北日本では低かった。沖縄・奄美は平年並だった。降水量は、西日本ではかなり少なく、東日本で少なかった。一方、北日本日本海側、沖縄・奄美では多かった。北日本太平洋側は平年並だった。日照時間は、東・西日本でかなり多かった。一方、北日本日本海側ではかなり少なく、北日本太平洋側で少なかった。沖縄・奄美は平年並だった。

夏(6~8月) :

○全国的に高温で、東・西日本、沖縄・奄美ではかなり高かった

○東日本太平洋側、沖縄・奄美で降水量がかなり少なく、東日本日本海側と東北日本海側ではかなり多かった。

○7月には山口県や島根県で、8月には秋田県や岩手県、島根県で記録的な豪雨

日本の南海上から西日本にかけて太平洋高気圧の勢力が強かったため、東日本以西は盛夏期に太平洋高気圧に覆われることが多く、北日本でも暖かい空気が流れ込みやすかったことから、全国的に高温となった。暖かい高気圧に覆われた6月中旬、太平洋高気圧が強まった7月前半と8月上旬後半から中旬は、北日本から西日本にかけて気温が平年よりかなり高くなり、東・西日本と沖縄・奄美では夏の平均気温がかなり高くなった。特に西日本では、夏の平均気温平年差は+1.2℃と1946年の統計開始以来最も高かった。また、全国の气象台等のうち26地点で夏の平均気温の高い方からの1位を更新した。なお、全国の気温を観測している927地点(アメダスと气象台等)のうち125地点(タイ記録も含めると143地点)で日最高気温の記録を更新し、8月12日には、江川崎(高知県四万十市)で日最高気温が41.0℃となり歴代全国1位となった。

沖縄・奄美では、太平洋高気圧に覆われて晴れる日が続いたため、夏の日照時間はかなり多く、降水量がかなり少なくなった。先島諸島では台風の影響で大雨となる日もあったが、1か月以上ほとんど雨が降らないところもあり、農作物の被害や取水制限が実施されるなどの影響があった。7月の月降水量は名瀬(鹿児島県)で0.0ミリ、那覇(沖縄県)で4.5ミリと、7月としては統計開始以来最も少なくなった。また、東日本太平洋側でも夏の降水量がかなり少なくなったため、利根川などでは取水制限が実施された。

一方で、日本の南海上から西日本に張り出した太平洋高気圧の縁を回って湿った気流が日本海から入りやすく、日本海側では大雨となる日があり、夏の降水量は、東日本日本海側や東北日本海側でかなり多かった。7月は東北地方に梅雨前線が停滞することが多く、東北地方では雨の日が続き、7月の月降水量の平年比は182%と1946年の統計開始以来7月としては最も多い記録を更新した。また、7月28日は山口県や島根県で、8月9日は秋田県や岩手県で、8月24日は島根県で記録的な豪雨となり、河川の増水や土砂災害が発生した。そのほかの地方でも、大気の状態が不安定となり、局地的に非常に激しい雨となる日があり、特に7月下旬から8月

上旬に多かった。

平均気温は、東・西日本、沖縄・奄美ではかなり高く、北日本で高かった。沖縄・奄美を除いて平年を 1℃以上上回った。降水量は、東日本日本海側ではかなり多く、北日本日本海側で多かった。一方、東日本太平洋側、沖縄・奄美ではかなり少なかった。北日本太平洋側、西日本は平年並だった。日照時間は、沖縄・奄美ではかなり多く、北日本日本海側、東日本、西日本太平洋側で多かった。北日本太平洋側、西日本日本海側は平年並だった。

秋（9～11月）：

○北日本から西日本にかけて降水量が多かった

○北・東日本で気温が高かった

○東・西日本、沖縄・奄美で日照時間が多かった

9月から11月上旬にかけては、日本の東海上の高気圧の勢力が平年より強く、また、日本付近の偏西風が平年に比べ北寄りを流れ、寒気の南下が弱かったため、北日本から西日本にかけて気温が高く、特に10月上旬は記録的な高温となった。一方、11月中旬以降は、強い寒気が日本付近に流れ込んだため、東・西日本と沖縄・奄美では気温が平年を下回る日が多くなった。

降水量は、9月から10月にかけては、秋の台風の日本への接近数が9個と1951年以降では1966年と並んで最も多くなったことと秋雨前線の影響で、北日本から西日本の広い範囲で平年を上回った。11月に入ってから、低気圧や冬型の気圧配置の影響で、日本海側で降水量が多く、北・東日本日本海側ではかなり多くなった。このため、秋の降水量は北・西日本と東日本日本海側でかなり多く、東日本太平洋側で多かった。特に、北日本日本海側では平年比135%、東日本日本海側では平年比162%となり、それぞれ1946年の統計開始以来最も多い記録を更新した。また、9月中旬に上陸した台風第18号の影響により福井県、滋賀県、京都府で、10月中旬に接近した台風第26号の影響により大島（東京都）で記録的な豪雨となった。

日照時間は、9月中旬から下旬にかけて高気圧に覆われることが多かったことや、11月中旬以降は冬型の気圧配置の日が多かったため、東・西日本と沖縄・奄美で多く、特に東日本太平洋側ではかなり多かった。

平均気温は、北・東日本で高かった。西日本、沖縄・奄美は平年並だった。降水量は、北日本、東日本日本海側、西日本ではかなり多く、東日本太平洋側で多かった。一方、沖縄・奄美では少なかった。日照時間は、東日本太平洋側ではかなり多く、東日本日本海側、西日本、沖縄・奄美で多かった。一方、北日本では少なかった。

4 全国気候表 2013年(12月20日までのデータによる)

地点名	平均気温(平年差)		降水量(平年比)		降水日数 ≥1mm	日照時間(平年比)	
	(°C)	(°C)	(mm)	(%)		(h)	(%)
札幌	9.6	(+0.3)	1274.0	(120)	153	1629.0	(95)
稚内	7.6	(+0.4)	1022.5	(100)	151	1365.2	(93)
北見枝幸	6.7	(+0.3)	1281.5	(115)	160	1342.2	(88)
旭川	7.6	(+0.3)	1165.5	(115)	169	1475.4	(94)
留萌	8.4	(+0.3)	1301.0	(120)	172	1387.4	(91)
羽幌	8.4	(+0.3)	1499.5	(122)	178	1422.9	(91)
岩見沢	8.3	(+0.2)	1429.5	(128)	162	1556.0	(92)
倶知安	7.5	(+0.1)	1685.0	(119)	189	1264.8	(87)
小樽	9.2	(+0.3)	1476.0	(125)	174	1445.4	(90)
寿都	9.2	(+0.2)	1307.5	(115)	169	1209.0	(85)
網走	7.3	(+0.4)	957.5	(125)	126	1767.2	(96)
紋別	7.1	(+0.4)	774.5	(98)	104	1615.8	(96)
雄武	6.5	(+0.4)	890.0	(105)	126	1496.1	(91)
釧路	7.4	(+0.8)	1224.5	(120)	98	1819.8	(95)
根室	7.1	(+0.5)	1166.5	(116)	105	1674.7	(93)
帯広	7.7	(+0.5)	928.0	(106)	99	1877.4	(95)
広尾	7.7	(+0.5)	1893.0	(113)	122	1688.8	(96)
室蘭	9.2	(+0.3)	1474.0	(127)	147	1586.3	(93)
苫小牧	8.3	(+0.3)	1574.0	(133)	129	1519.6	(92)
浦河	8.5	(+0.2)	1220.5	(116)	113	1745.3	(97)
函館	9.8	(+0.3)	1290.5	(115)	145	1587.8	(93)
江差	10.7	(+0.3)	1476.0	(127)	154	1279.8	(89)
青森	10.9	(+0.2)	1623.5	(130)	156	1493.7	(94)
深浦	11.0	(-0.1)	1606.5	(113)	159	1263.4	(88)
むつ	10.0	(+0.1)	1325.5	(102)	141	1468.6	(93)
八戸	10.6	(+0.1)	1018.5]	()	101]	1769.0	(97)
秋田	12.3	(+0.2)	2315.5	(142)	179	1454.0	(96)
盛岡	10.9	(+0.3)	1637.0	(132)	131	1649.7	(100)
大船渡	11.7	(+0.1)	1280.0	(84)	102	1651.1	(97)
宮古	11.0	(+0.1)	1306.5	(100)	92	1877.4	(103)
仙台	13.0	(+0.3)	1106.5	(89)	97	1839.7	(105)
石巻	12.0	(+0.1)	1135.5	(108)	93	1907.0	(101)
山形	12.3	(+0.2)	1319.5	(117)	137	1676.1	(106)
新庄	11.2	(+0.1)	2619.5	(147)	199	1276.9	(97)
酒田	13.2	(+0.2)	2655.5	(146)	189	1432.1	(93)
福島	13.8	(+0.4)	1195.5	(104)	94	1817.2	(107)
若松	12.3	(+0.2)	1270.5	(108)	137	1712.9	(108)
白河	12.4	(+0.5)	1399.5	(100)	109	1857.0	(107)
小名浜	14.1	(+0.4)	1297.0	(93)	100	2106.8	(107)
水戸	14.7	(+0.7)	1335.5	(100)	101	2182.1	(118)
館野(つくば)	15.0	(+0.9)	1279.5	(101)	89	2148.4	(117)
宇都宮	14.9	(+0.7)	1502.0	(101)	106	2048.1	(111)
日光	7.8	(+0.5)	1912.5	(89)	128	1847.2	(108)

地点名	平均気温(平年差)		降水量(平年比)		降水日数 ≥1mm	日照時間(平年比)	
	(°C)	(°C)	(mm)	(%)		(h)	(%)
前橋	15.7	(+0.8)	997.5	(80)	91	2282.0	(112)
熊谷	16.0	(+0.7)	1250.0	(98)	91	2256.3	(115)
秩父	14.2	(+0.7)	1369.0	(104)	84	2109.8	(116)
東京	17.5	(+0.9)	1612.0	(106)	92	2061.4	(114)
大島	16.9	(+0.5)	3350.5	(120)	113	1946.8	(111)
三宅島	18.1	(+0.2)	2438.5	(84)	126	1838.9	(110)
八丈島	18.2	(+0.2)	2169.0	(69)	132	1590.9	(117)
父島	23.1	(-0.2)	1079.0	(86)	97	1914.8	(96)
千葉	16.9	(+0.9)	1444.5	(105)	91	2063.3	(112)
銚子	16.4	(+0.7)	1656.5	(101)	108	2171.0	(114)
館山	16.8	(+0.6)	1701.0	(96)	100	2110.1	(112)
勝浦	16.6	(+0.6)	1918.0	(99)	107	1952.0	(105)
横浜	17.0	(+0.9)	1513.5	(90)	94	2183.0	(115)
長野	12.8	(+0.5)	1111.5	(121)	104	2076.0	(110)
松本	12.8	(+0.6)	1042.5	(102)	82	2277.7	(112)
諏訪	11.9	(+0.4)	1297.0	(102)	91	2287.4	(111)
軽井沢	9.2	(+0.6)	960.0	(78)	92	2061.9	(110)
飯田	13.5	(+0.4)	1408.0	(88)	98	2176.0	(111)
甲府	15.9	(+0.8)	935.5	(83)	66	2382.7	(113)
河口湖	11.7	(+0.8)	1443.0	(93)	90	2111.4	(112)
静岡	17.5	(+0.6)	1817.0	(79)	86	2216.7	(109)
浜松	17.3	(+0.7)	1663.5	(93)	83	2378.5	(111)
御前崎	17.2	(+0.5)	1788.0	(88)	89	2415.3	(112)
三島	17.0	(+0.8)	1466.0	(79)	92	2042.6	(108)
石廊崎	17.3	(+0.4)	1447.5	(82)	94	2171.1	(106)
網代	16.9	(+0.6)	1594.0	(81)	100	1917.1	(110)
名古屋	16.8	(+0.6)	1459.0	(96)	86	2293.9	(113)
伊良湖	16.9	(+0.6)	1370.5	(87)	74	2410.1	(113)
岐阜	16.7	(+0.5)	1857.0	(103)	100	2266.3	(112)
高山	11.8	(+0.4)	1682.5	(101)	130	1775.2	(111)
津	16.9	(+0.6)	1385.5	(88)	85	2301.2	(115)
上野	15.2	(+0.6)	1467.5	(109)	87	1980.8	(116)
尾鷲	17.0	(+0.6)	3001.0	(79)	101	2175.1	(115)
四日市	15.7	(+0.5)	1575.0	(92)	89	2124.2	(111)
新潟	14.2	(0.0)	2228.5	(127)	162	1643.0	(101)
相川	14.4	(+0.2)	2001.5	(138)	153	1616.5]	()
高田	14.2	(+0.2)	2946.5	(113)	190	1679.0	(107)
富山	15.0	(+0.6)	2759.0	(125)	171	1767.5	(112)
伏木	14.6	(+0.3)	2761.0	(129)	170	1750.8	(110)
金沢	15.4	(+0.4)	3200.5	(139)	173	1848.4	(112)
輪島	14.0	(+0.2)	2811.0	(139)	179	1637.9	(106)

地点名	平均気温(平年差)		降水量(平年比)		降水日数 ≥1mm	日照時間(平年比)	
	(°C)	(°C)	(mm)	(%)		(h)	(%)
福井	15.3	(+0.4)	2643.0	(123)	163	1724.8	(108)
	敦賀	16.0	(+0.4)	2487.5	(123)	157	1705.1
彦根	15.6	(+0.6)	1394.5	(91)	119	2036.6	(114)
京都	16.6	(+0.4)	1425.5	(97)	87	1890.9	(109)
	舞鶴	15.2	(+0.3)	1993.0	(112)	130	1752.6
大阪	17.5	(+0.3)	1404.5	(111)	86	2245.0	(115)
神戸	17.4	(+0.3)	1283.5	(107)	85	2205.5	(114)
	豊岡	15.4	(+0.7)	1880.5	(97)	139	1608.8
姫路	15.9	(+0.3)	1449.5	(122)	84	2151.7	(109)
	洲本	16.0	(+0.2)	1627.5	(117)	90	2217.8
奈良	15.7	(+0.5)	1493.0	(115)	92	1960.2	(110)
和歌山	17.4	(+0.4)	1350.0	(104)	86	2235.3	(110)
	潮岬	17.8	(+0.3)	2104.0	(84)	104	2438.1
岡山	16.8	(+0.3)	1326.5	(121)	80	2159.9	(109)
	津山	14.5	(+0.5)	1583.5	(113)	101	1892.5
広島	17.0	(+0.4)	1810.5	(119)	81	2199.5	(110)
	呉	16.9	(+0.4)	1694.5	(124)	82	2210.2
福山	16.2	(+0.5)	1362.0	(123)	83	2195.4	(107)
松江	15.8	(+0.6)	1946.0	(112)	128	1824.9	(109)
	西郷	15.0	(+0.4)	1695.5	(97)	127	1800.9
浜田	16.4	(+0.6)	2073.5	(127)	114	1782.0	(104)
鳥取	15.9	(+0.7)	1918.5	(104)	131	1819.2	(111)
	米子	16.0	(+0.7)	1898.0	(110)	133	1861.4
境	16.0	(+0.5)	1699.5	(92)	136	1772.8	(105)
徳島	17.2	(+0.3)	1926.5	(134)	89	2256.6	(111)
高松	17.3	(+0.7)	1521.5	(142)	88	2242.0	(112)
	多度津	17.0	(+0.4)	1548.5	(146)	89	2215.8
松山	17.2	(+0.4)	1609.0	(124)	92	2164.0	(110)
	宇和島	17.5	(+0.4)	1340.0	(82)	97	2126.3
高知	17.7	(+0.4)	2309.5	(91)	95	2303.5	(110)
	宿毛	17.5	(+0.2)	1499.5	(77)	88	2290.0
清水	18.6	(+0.1)	2136.5	(87)	91	2373.2	(111)
	室戸岬	17.3	(+0.3)	1930.0	(84)	91	2283.6
山口	16.2	(+0.4)	2239.5	(120)	102	2003.4	(108)
	下関	17.6	(+0.6)	1715.0	(103)	93	1989.4
萩	16.5	(+0.6)	1966.0	(120)	107	1815.5	(105)
福岡	18.1	(+0.8)	1781.5	(112)	102	2025.3	(111)
	塚	16.5	(+0.5)	1965.5	(113)	111	1732.7]

地点名	平均気温(平年差)		降水量(平年比)		降水日数 ≥1mm	日照時間(平年比)	
	(°C)	(°C)	(mm)	(%)		(h)	(%)
大分	17.3	(+0.6)	1499.0	(92)	81	2137.0	(110)
日田	16.3	(+0.5)	1674.5	(94)	99	1875.3	(107)
長崎	17.9	(+0.4)	1678.0	(91)	95	1982.9	(109)
厳原	16.6	(+0.5)	2236.0	(101)	94	1973.8	(109)
平戸	16.8	(+0.4)	2160.0	(103)	100	1852.8	(106)
佐世保	17.8	(+0.5)	2020.0	(105)	103	2005.6	(107)
雲仙岳	13.3	(+0.2)	2657.5	(93)	119	1486.5	(105)
福江	17.7]	()	1944.5	(84)	108	1800.7]	()
佐賀	17.6	(+0.8)	2006.0	(108)	95	2072.6	(108)
熊本	17.7	(+0.4)	1970.0	(100)	95	2148.3	(110)
阿蘇山	10.6	(+0.4)	3009.0	(95)	129	1642.0	(108)
人吉	16.2	(+0.3)	2100.0	(89)	106	1871.9	(105)
牛深	18.7	(+0.4)	1530.5	(79)	101	2101.3	(110)
宮崎	18.3	(+0.5)	2072.0	(83)	95	2330.7	(114)
延岡	17.4	(+0.5)	1769.0	(77)	94	2307.5	(112)
都城	17.4	(+0.6)	1782.5	(73)	101	2082.5	(111)
油津	18.9	(+0.4)	2171.5	(84)	108	2094.0	(110)
鹿児島	19.3	(+0.4)	1775.0	(79)	107	2127.5	(112)
阿久根	18.1	(+0.5)	1673.5	(82)	104	2094.5	(109)
枕崎	18.7	(+0.3)	1700.5	(79)	101	2108.7	(112)
屋久島	20.0	(+0.3)	3005.5	(68)	135	1726.3	(115)
種子島	20.2	(+0.3)	1581.5	(68)	112	2045.5	(116)
名瀬	22.1	(+0.2)	2266.0	(82)	124	1576.8	(118)
沖永良部	22.7	(+0.1)	1382.0	(77)	98	1978.8	(108)
那覇	23.6	(+0.4)	2042.5	(102)	117	1789.9	(103)
名護	23.1	(+0.3)	1659.5	(84)	119	1823.5	(106)
久米島	23.5	(+0.4)	1768.5	(86)	119	1810.3	(105)
宮古島	24.1	(+0.3)	1548.5	(79)	118	1789.7	(103)
石垣島	24.8	(+0.4)	2106.0	(103)	110	1823.3	(101)
西表島	24.1	(+0.3)	2208.0	(98)	126	1684.2	(98)
与那国島	24.2	(+0.2)	1950.5	(85)	146	1528.9]	()
南大東島	23.8	(+0.4)	1406.5	(91)	92	2082.2	(100)

- (注) 1. これらは12月20日までの観測値を使った集計結果である。
2. 値の横に] がある場合(資料不足値)には、統計期間内のデータに欠測等統計に
用いなかった値が含まれているので注意されたい。
3. 平年差(比)は同期間の日別平年値を平均・合計したものに對する差(比)である。

5 平年差（比）が観測史上1位を上回っている地点

(12月20日までのデータによる)

過去の平年差（比）と同値は「=」で表す。

年平均気温の平年差が最高値を上回っている地点

なし

年平均気温の平年差が最低値を下回っている地点

なし

年降水量の平年比が最大値を上回っている地点

地点名	2013年(12月20日まで)			これまでの最大 平年比(西暦年)	開始年
	平年比 %	値 mm	平年値* mm		
新庄	147	2619.5	1786.3	130 (1958)	1957
酒田	146	2655.5	1820.1	135 (1937)	1937

年降水量の平年比が最小値を下回っている地点

地点名	2013年(12月20日まで)			これまでの最小 平年比(西暦年)	開始年
	平年比 %	値 mm	平年値* mm		
種子島	68=	1581.5	2316.3	68 (1981)	1948

年日照時間の平年比が最大値を上回っている地点

地点名	2013年(12月20日まで)			これまでの最大 平年比(西暦年)	開始年
	平年比 %	値 h	平年値* h		
諏訪	111	2287.4	2062.6	109 (2004)	1945
熊谷	115	2256.3	1965.4	113 (1940)	1899
水戸	118=	2182.1	1854.9	118 (1943)	1899
甲府	113	2382.7	2107.8	110 (2004)	1900
秩父	116	2109.8	1824.1	112 (1994)	1926
鉦子	114=	2171.0	1897.7	114 (1940)	1899
上野	116	1980.8	1712.3	113 (1942)	1938
伊良湖	113	2410.1	2140.0	111 (1994)	1947
尾鷲	115	2175.1	1888.5	112 (1995)	1938
横浜	115=	2183.0	1896.9	115 (1940)	1905
館山	112=	2110.1	1876.6	112 (2004)	1968
舞鶴	116	1752.6	1511.4	115 (1984)	1947
神戸	114	2205.5	1942.3	113 (1942)	1898
大阪	115=	2245.0	1943.8	115 (1922)	1890

延岡	112	2307.5	2058.1	110	(1995)	1961
屋久島	115=	1726.3	1501.3	115	(1994)	1938
宇和島	112	2126.3	1897.8	111	(2004)	1923
清水	111	2373.2	2145.4	109	(1995)	1941
沖永良部	108	1978.8	1840.6	107	(1977)	1969

年日照時間の平年比が最小値を下回っている地点
なし

(注) これらは12月20日までの観測値を使った集計結果であるので、年末までのデータを加えた確定値では変わる可能性がある。
 値の横に]がある場合(資料不足値)には、統計期間内のデータに欠測等統計に用いなかった値が含まれている。順位は極値順位以上になることは
 確実であるが、統計値の使用に際しては注意されたい。
 平年値(*)は日別平年値を平均・合計したものである。
 平年値とは1981~2010年の30年間の値を平均したものである。